

施策評価シート(令和4年度実施施策)

総合計画 体系	政策No.	1	政策名	自然に配慮した環境づくり	施策主管課	町民税務課
	施策No.	1-1	施策名	自然・生活環境の保全	施策主管 課長名	猪俣 利幸
関係課	町民税務課					

1. 施策の目的

対 象	A 町域	意 図	A 人と自然が共生し良好な生活環境が維持される
	B 地域		B 物が循環し環境に配慮した生活様式の輪が広がる
	C 町民		C ごみ排出を抑制し分別排出の行動意識が高まる

2. 成果指標

指標名		単位	現状値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
①	A 2・3年前と比べて自然環境が良くなっていると感じている町民の割合(増加)(現状値:H28-30平均)	%	59.3	60.5	60.7	60.8	60.9	61.1
				59.1	57.6			
②	B 環境に気がついた生活をしている町民の割合(増加)(現状値:H28-30平均)	%	80.3	80.7	81	81.3	81.6	81.9
				79.6	81.6			
③	C 町から排出される町民一人あたりの生活系一般廃棄物の量(資源ごみを除く)(減少)(現状値:H30時点)	kg/人	267	239	234	230	225	222
				238	238			
④								

3. 指標の分析(成果が向上した、またはしなかった理由)

①	近年減少傾向にあり、数値は前年度より1.5ポイント減少し目標値に対し△3.1%であった。過疎化・高齢化に伴い耕作放棄地や管理放棄地が増加し農地や水路等の自然環境が荒廃してきていること、また、管理不全により廃墟と化した空き家や雑木や雑草や繁茂した空き地などが目立ってきており、自然環境が良くなっていると感じる人が減少していると考えられる。
②	数値は前年度より2ポイント上昇し目標値を上回った。選別収集による分別・適正排出の啓発や広報紙やホームページ等による廃棄物4R運動と食品3切運動の呼びかけにより、環境問題への身近な取組であるごみの削減と適正排出の行動意識が高まっている。環境問題への関心の高まりと電気料金等の高騰に伴う節電など省エネ生活への意識変革も相まって、環境に気がつかっていると感じる方が増加していると考えられる。
③	数値は前年度と同値であり、目標値に対し△4kgであった。ごみ減量に係る広報等の啓発活動により、廃棄物の4R運動が浸透してきており日常の生活ごみは減少している。しかし、コロナ禍の行動制限が緩和されたことで県境をまたぐ往来が可能となり、実家の片付け等による一時的な多量ごみの件数が前年度に比べ100件以上増えており、目標値の達成には至らなかった。
④	

4. 課題に対する取組(今年度重点的に取り組んだ課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物減量に向けて、出前講座や広報紙等でごみの排出削減や適正分別排出についての啓発活動を実施した。 ・利用者の体験談を広報紙に掲載するなどして、生ごみ処理機購入補助金の周知と機器導入の促進に努めた。 ・騒音調査を、高速道路及び町内2か所において実施し、いずれの地点も環境基準等を下回った。

5. 次年度の方向性(施策の方向性と次年度以降重点的に取り組む課題)

<p>廃棄物4R運動によるごみ発生抑制と分別を促進し、食品3切運動による生ごみの発生と排出抑制により生活系一般廃棄物の減量と事業系ごみガイドブックを作成し事業系一般廃棄物の減量に努めるとともに、R6年度から開始予定のプラスチック製品の分別収集に向け、町民が混乱しない制度を設計し丁寧な説明により周知に努める。また、町民が地球温暖化を身近な問題として関心を持ち、省エネ製品への切り替えや節電等の省エネ生活への意識を高めるため、広報紙やHP等を活用し啓発に努める。</p>
--

6. 施策を構成する事務事業（方向性と次年度以降重点的に取り組む主要な事業）

番号	事業通番	事務事業名	令和4年度決算額 (千円)	最終評価結果			主要事業
				成果の方向性	コストの方向性	今後の方向性	
1	5037	廃棄物減量対策事業	4,461	拡充	拡大	①有効性改善	○
2	5430	廃棄物処理事業	250,943	現状維持	現状維持	⑤現状維持	
3	16742	生活環境保全事業	440	拡充	拡大	①有効性改善	
4	16790	狂犬病及び犬猫等処理事業	458	現状維持	現状維持	⑤現状維持	
5	17708	電源立地地域対策交付金事業	8	評価対象外	評価対象外	評価対象外	